

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 教育学部 |
| 大項目 | 5 学生の受け入れ |
| 中項目 | |
| 小項目 | 5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。 |
| 要素 | 求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針 |
| 小項目 | 5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。 |
| 要素 | 学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性 |
| 小項目 | 5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。 |
| 要素 | 収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応 |
| 小項目 | 5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。 |
| 要素 | |

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況評価 | | | | |
|--|--|--------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 教育学部教育者養成の理念に基づいたアドミッションポリシーを明示し、受験者に目標と内容の理解を徹底する。 | →「募集要項・オープンキャンパス等におけるアドミッションポリシーの明示・説明と教授会構成メンバーへの周知」「オープンキャンパス等を利用して受験生への事前相談の実施」 | B | B | A | A | |
| 2. 教育者養成を核としたアドミッションポリシーの理解を学部としてより深める。 | →「各種の入試関係の委員会の開催状況」「入試制度検討委員会の開催頻度と検討の進捗状況」「オープンキャンパスでの事前相談の教員配置状況」 | B | B | A | A | |
| 3. 教育学部の理念に基づき、収容定員を過不足無く確保するよう努力を行う。 | →「歩留まり率検討委員会の開催頻度」 | A | A | A | A | |
| 4. 教育学部の理念と教育者養成のアドミッションポリシーに基づき、学生募集と学生選抜が公正かつ適切に実施されているか検証を行う。 | →「入試制度委員会の開催頻度」 | C | B | B | B | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|------------------------------|---|------|------|------|------|------|
| 5. 在籍学生数を学科・コースごとに収容定員に合わせる。 | →収容定員(幼児・初等教育学科 幼児教育コース560名、初等教育コース570名、臨床教育学科280名)に対する在籍学生数の比率 | | | B | B | |
| | → | | | | | |

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

| | |
|-----|---|
| 目標1 | 学部選抜説明会を4つの高校において行ない、模擬授業の要請を受けて実施したのは4校であった。全学のオープンキャンパスとは別に、教育学部独自で聖和キャンパスにおいてオープンキャンパスを開催した。そこでは、AO入試に特化して説明を行うなど、教育学部の入試に必要な情報を提供した。 |
| 目標2 | 入試制度検討委員会および各種入試委員会を各々2回開催した。入試制度検討委員では、指定校の見直しを行ない、新たに18校を加え、153校となった。各種入試委員会においては、2013年度より始まるグローバル入試に伴い定員数の調整が必要となったAO入試の定員を改めた。オープンキャンパスでは、受験生への徹底した理解を図るため、全体説明会だけではなく、多くの教員を個別相談に充てて、対応した。 |
| 目標3 | 入試合否判定検討委員会（歩留まり率検討委員会）を適宜開催し、委員会のメンバーには幼児・初等教育学科および臨床教育学科代表の教員が加わるなど、教育学部の理念に基づいて収容定員を確保するよう努力した。 |
| 目標4 | 入試制度委員会を1月～3月に開催したが、その頻度については前年度と同じであった。 |
| 目標5 | 在籍学生数を基に収容定員に合わせることを目標に入試合格の判定を行った。幼児教育コースはわずかに入学定員に満たなかったが、初等教育コースおよび教育科学コースについて若干超過したこともあり、入学定員に近い入学者数になった。ただし、2010年度および2012年度の入学者数が多かったため、未だ在籍学生数は収容定員を約6%上回っている。 |
| 備考 | |

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

| 【教育学部】 | | 単位 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 備考 |
|--------|-----------------------|----|-------|--------|--------|--------|--------|---------------------------------------|
| 指標1 | 入学定員 | 名 | 350 | 350 | 350 | 350 | 350 | |
| 指標2 | 志願者総数 | 人 | 3,267 | 3,457 | 3,933 | 3,858 | 4,093 | |
| 指標3 | 合格者数 | 名 | 773 | 927 | 1,070 | 1,022 | 921 | |
| 指標4 | 入学者数 | 名 | 322 | 381 | 365 | 385 | 356 | |
| 指標5 | 志願者倍率 | 倍 | 9.3 | 9.9 | 11.2 | 11.0 | 11.7 | 志願者÷入学定員 |
| 指標6 | 入学定員に対する入学者数比率(5年間平均) | 倍 | / | / | / | / | / | 入学者数÷入学定員 (小数点第二位以下切捨) |
| 指標7 | 入学者に占める一般入試入学者の比率 | % | 46.3% | 51.7% | 49.6% | 47.0% | 36.5% | 一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む |
| 指標8 | 収容定員 | 名 | 350 | 700 | 1,055 | 1,410 | 1,410 | |
| 指標9 | 在籍学生数 | 名 | 322 | 703 | 1,065 | 1,445 | 1,495 | |
| 指標10 | 収容定員に対する在籍学生数比率 | % | 92.0% | 100.4% | 100.9% | 102.5% | 106.0% | 在籍学生数÷収容定員 |
| 指標11 | 編入学生数 | 名 | (0) | (0) | 3 | 5 | 7 | 編入学定員がない学部でも、編入学生がいれば記入する。※その場合は()で記入 |
| 指標12 | 編入学定員 | 名 | — | — | 5 | 10 | 10 | |
| 指標13 | 編入学定員に対する編入学生数比率 | % | — | — | 60.0% | 50.0% | 70.0% | |
| 指標14 | 学部・学科ごとの退学者数 | 名 | 1 | 5 | 10 | / | / | |

※指標11…編入学定員を持たない学部の編入学生数は()で記入